



9月18日(土)〜20日(月)、五十嵐靖晃アートプロジェクト「つなぎまちのつなぎかた」で展示する作品《海渡り》の制作実験が旧赤崎小学校近くで開かれました。住民のべ40人が参加し、弁天島の鳥居と陸をつなぐように100本の糸を張っていききました。

弁天島は赤崎地区と干潮時に陸続きになる島で、頂上に海辺の集落を見守るように弁天様がまつられています。明治時代にはすでに執り行われていたとされる集落の「弁天様のお祭り」は、近年は高齢化などで継承が難しくなっていました。

《海渡り》は、古くから地域に伝わる弁天信仰を住民と共にアートの力で再構築し、

五十嵐靖晃アートプロジェクト 「つなぎまちのつなぎかた」 海と陸をつなぐ 百本の糸

人々と協力しながら後世に受け継いでゆくことを目指す新しい形のアート作品です。

五十嵐さんは「島を往来する人々の歩みの軌跡を糸に乗せて形にしたかった。アートがきっかけになって町の魅力が掘り起こされ、自分たちで再確認しつつ外に発信していきたい」と話していました。

《海渡り》作品公開

【期間】10/11(月)〜29(金)

【場所】旧赤崎小学校近く

※その他イベントなど詳しくはつなぎ美術館HPをご覧ください。
右のQRコードを読み取ってください。



住民有志が100本の糸を100本準備



干潮時に糸を持って島まで渡りました



陸と島の間に赤い糸を張る五十嵐さん

ユージン・スミスとアイリーン・スミスが見た MINAMATA 半世紀前の日常を写す

公式確認からこととして65年となる水俣病。映画「MINAMATA」で再び注目されている写真家ユージン・スミスさんと妻アイリーン・スミ子・スミスさんの写真展が9月11日(土)からつなぎ美術館で始まりました。

2人は1971年から3年間、水俣市に暮らしながら患者を取材。1975年に刊行した写真集「MINAMATA」は大きな反響を呼び、水俣病が世界で広く知られるきっかけとなりました。

会場には、ユージンさんの助手だった石川武志さんが夫妻を撮影した作品や写真集に入っていない水俣の日常を捉えた未発表の作品など83点を展示。ユージンさん自身の姿を収めたものや漁船の上で朝食をとる漁業者など、海の恵みと共に生きてきた人々の姿が紹介されています。

アイリーンさんは「水俣病は過去の問題ではない。改めて事実を若い世代に伝えることが大切。この地域で写真展を開くのは大変意味があると思います」と話していました。



Photo by Aileen M. Smith
©Aileen Mioko Smith



Photo by Aileen M. Smith
©Aileen Mioko Smith



Photo by Aileen M. Smith
©Aileen Mioko Smith